

実績概要 (ホームページ掲載用)

研究又は活動のテーマ	青島「こどものくに」を核とした美しい宮崎づくりの研究
助成事業者	こどものくにときどき花くらぶ
代表者	源 香
<p>(目的)</p> <p>宮崎市の青島地区は、年間93万人が訪れる青島神社、宮交ボタニックガーデン青島、海水浴やサーフィンが楽しめる青島ビーチなどを有する本県の代表的な観光地である。</p> <p>また、来年度には、青島の新しい顔となる「AOSHIMA BEACH VILLAGE」(旧橋ホテル跡地)オープンや、東九州自動車道(清武南～日南北郷間)の開通が予定されている中において、宮崎観光のゴールデンルートである宮崎市から県南地区(日南市、串間市)に通じる「日南海岸地域シーニックバイウェイ」の玄関口として、青島地区の重要性はますます高まってきている。</p> <p>青島地区は、宮崎観光の父 岩切章太郎氏による亜熱帯性植物を活用した「南国風の景観」が特徴である。この修景手法は県内の沿道修景に大きく影響を与え、本県の顔として大きな成果を上げてきたのは言うまでもない。</p> <p>しかし、時代が移り変わる中において、今後も「行ってみたい」と選ばれる魅力的なエリアであり続けるためには、「南国風の景観」という枠組を超えた、自然との共生や人とのつながりが感じられる景観づくりが必要である。</p> <p>そこで、かつて岩切章太郎氏が大地に絵を描き、人々の「こころ」の中に、かけがえのない沢山の思い出を残してきた「こどものくに」を舞台に、</p> <ol style="list-style-type: none">1 ナチュラリスティックガーデンの手法を取り入れた人々の「こころ」に響く美しい景観づくり2 トロピカルロードを活用した周遊型観光 <p>の研究を通じて、青島地区の地域活性化を目指す</p>	
<p>(概要)</p> <p>研究1年目は、トロピカルロードを視点場として眺望できる「こどものくに」の試験植栽地(ピクニックガーデン)において、景観コンセプトや植栽デザインを検討、試験植栽を実施した。</p> <p>『広い青空と海の風や波音、ヤシの揺れる影や太陽の反射するキラキラの水辺がある「こどものくに」で、心地いいありのままを自然にゆだねながらゆっくりと流れていく時間と共に作られていく究極セラピーガーデン』を景観コンセプトに、既存のグラス類を生かしながら、生物多様性や自然の循環を感じる仕掛けとして、花粉媒介者(pollinator)が好む蜜源植物や、亜熱帯性植物と組み合わせの相性が良いオージープラツなどを試験植栽した。</p> <p>今後は、試験植栽を検証しながら、トロピカルロードを活用した周遊型観光の研究と連携しながら、人々の「こころ」に響く美しい景観づくりに取り組む。</p>	